

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 29 年度 第 3 回 相模原市総合計画審議会				
事務局 (担当課)		企画政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 3 (直通)				
開催日時		平成 29 年 10 月 31 日 (火) 10 時 00 分 ~ 11 時 35 分				
開催場所		相模原市役所 本庁舎本館 2 階 第 1 特別会議室				
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	5 人 (企画政策課長 他 4 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 名
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		開会 1 議事 (1) 総合計画進行管理 2 次評価の結果について (2) 施策の実施状況に関する建議書 (案) について (3) その他 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり

(委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言)

開会 椎橋企画政策課長

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 総合計画進行管理 2 次評価の結果について

本日の議事 (1) 「総合計画進行管理 2 次評価の結果について」事務局から説明願いたい。

事務局より資料の説明が行われた。

資料 1 - 3 は、部会での検討結果を踏まえた評価を記載しているのか。

施策 3 4 に関連するものとして第 2 部会におけるヒアリング時にいただいた意見を基に、評価案として提示している。

例えば、産業用ロボット導入支援加速化事業の実績額は約 7 , 8 0 0 万円と記載されているが、各指標に係る事業の実績額の内訳はどうなっているのか。

実績額は「交付対象事業の名称」欄に記載されている各事業に対するものであり、当該事業の成果を測るものとして設定した指標ごとの事業費の内訳を表示するものではない。なお、実績額は国から交付された交付金の額を表示しており、地方創生加速化交付金に係る事業については事業費総額の全額が、残りの 2 つについては半額が交付されている。

施策 3 4 に対する第 2 部会の評価は、資料 1 - 3 に掲げる事業も含めて A としている。

各指標の昨年度の実績値は目標値に達していないが、どのように理解すれば良いのか。

各指標の目標値は、最終の目標年月までに達成すべきものを表示したもので

あり、各年度における目標値は別途定めている。例えば、産業用ロボット導入支援加速化事業の指標における昨年度の目標値は5台、指標は5社となっており、大幅に目標を上回っている一方、さがみはらグローバル展開事業の指標は24,000千円、指標は4人と実績が下回っており、その事業効果については「相当程度効果があった」と評価している。

これらの事業は、国から全額又は半額を交付金として配分されて実施しているわけだが、交付期間満了後は、事業の再評価をした上で、継続の是非について判断する必要がある。

(2) 施策の実施状況に関する建議書(案)について

本日の議事(2)「施策の実施状況に関する建議書(案)について」事務局から説明願いたい。

事務局より資料の説明が行われた。

平成30年度以降の進行管理について、ヒアリングを実施せずに、事務局が取りまとめた評価案について我々が意見するという形にしたとしても、時間短縮にはつながらない。

これまでどおりの個別ヒアリングと策定作業を並行して行うことによって我々への負担が増大することを配慮しての考えだとは思う。

進行管理の手法としては、従来どおり行う方法がまず考えられるが、策定作業と並行して行うため、会議の回数や作業量が相当増えることが見込まれる。

2つ目としては、事務局が取りまとめた評価案に対し意見する方法が考えられる。事前に資料に目を通す必要に変わりはないため、作業量はそれほど変わらないかもしれないが、会議の回数は減り、我々の負担は軽減される。

3つ目としては、行政が行う1次評価にとどめる方法が考えられるが、審議会として意見をしないということは無責任な感じがする。

我々が時間を要するのは、施策の意味合いを考えることや、進行管理シートに記載された用語の意味を調べることであり、そこを分かりやすく提示した上で事務局が第三者の目を見た2次評価案を示すのであれば、時間短縮につながると思う。

私が言った2つ目の案でということだと思うが、我々に2次評価案を示す際には、1次評価の中で際立って問題が感じられるものを事務局が抽出した上で報告していただきたい。

現計画に係る評価を行う中で、現状に即して指標の設定がされていない等、これまで様々な指摘をしてきている。これまで行った評価を総括した上で、次期計画に反映させる必要がある。

この進行管理を最後まで続けて、総括するのも大変重要な作業であると考えている。現計画の評価と、その計画への反映を併せてできるのは、現委員の方々であると考えているため、少し大変にはなるが、並行して行っていただきたい。

各施策に対するヒアリングは各3回行われており、公式なものでも良いが、ヒアリングを受けたことにより何が良かったのか、事務局から担当部局へ確認していただきたい。

また、建議書において繰り返し指摘している事項をチェックポイントとしてまとめ、それらについてあらかじめ担当部局に質問しておいていただければ、直接ヒアリングをせずとも評価は可能であると思う。

ヒアリングにおいて問題指摘を受けても、組織としてそれを改善するスキルやノウハウが蓄積していないと感じるため、事務局として検証しておくことが必要である。

施策25に対する意見は、節約という志向から環境に優しいエネルギー負荷が低いものを買う人たちを想定しているメニューがないという話であったと記憶しており、こういう人たちに対して啓蒙するということではなく、施策の組み立て直し若しくはメニューを追加するという趣旨へ修正願いたい。

施策31に対する意見には、相模原市は自然環境が多様であり一律ではないという趣旨の文言を追加願いたい。

施策34については、「融資した後の状況把握」とは融資対象企業の経営の状況の把握だということが分かりやすい修正が必要である。

施策全体にわたっての指摘について、どの部分に対するものなのか分かりづらい。読んでイメージが沸くように、全体的にそうだが特にとかいう風にも書いてもらったほうが良い。

指標名を記載するなど、もう少し具体性を持たせた記載に変更願いたい。

今後次期計画の策定作業に入るため、この建議書において何が大事かということ、事務局から各部局に対してどのように伝えたのか、共有できれば良いと思う。

建議書の手交式の際の市長からの発言も添えて、各局長宛に各局の総務室に対して建議書とそれに対する対応方針の作成依頼の文書を送付している。

この建議書は、自分の局部課だけではなく、他の部局に対する指摘も含めて全体像を把握すべきであり、若手職員も含めて何らかの会議の場で説明をする必要があると思う。

現在は各局長宛の文書による通知にとどまっているが、各局の幹部が集まる会議や課長級の職員が集まる会議の場で伝達し、情報の共有や解釈を深めることについて、検討したいと思う。

なお、建議に対する対応方針については、局長級の職員が集まる政策会議という場で確認をしているところである。

(3) その他

議事(3)「その他」について事務局から説明願いたい。

本日のご意見を踏まえ、事務局で本日お示しした建議書案を修正し、再度確認をさせていただきたい。

次回の審議会は1月下旬頃を予定している。別途日程調整させていただく。

他に意見等がないようなので、本日の議事は終了とする。

閉会 椎橋企画政策課長

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科		出席
2	大谷 聡穂	公募		欠席
3	金森 剛	相模女子大学人間社会学部 社会マネジメント学科	副会長	出席
4	栗田 愛子	公募		出席
5	高田 泉	公募		出席
6	中田 恭子	青山学院大学理工学部化学・生命 科学科		出席
7	長野 基	首都大学東京都市環境学部建築都 市コース・大学院都市環境科学研 究科都市システム科学域		出席
8	西田 恵一郎	和泉短期大学児童福祉学科		出席
9	林 佳美	公募		出席
10	吉田 民雄	総合政策プランナー	会 長	出席